

ARTIST NOTE

” 天天向上” ダニー・ヨン

” 天天向上” とは毎日進歩することを意味します。この言葉は昔、1950 年代に毛沢東が子どもたちのやる気を起こすために言ったスローガンです。この 4 つの語は、中国のすべての小学校の校門に書かれているのを見かけるほど一般的な言葉でした。私はこの標語に創作のヒントを得て、1970 年代にコンセプトチュアルなコミックを生み出しました。その中で、私は、さまざまな質問を延々と投げかけたり、自分たちが勉強にばかり集中させられることを拒否したりする少年たちを描きました。5 年前、私は” 天天向上” のコミックの展示とワークショップを企画しました。コミックの主人公を天天と名づけ、3 次元の造形をデザインしたのです。

天天の白くて立体的なボディは、私にとっては、人々が書いたり描いたりできる無限の可能性をもつ白い紙のようなものです。” 白い紙” を創り出した人は真の芸術的デザイナーです。白い紙の材質、寸法、形状、質感などはすべてデザイナーの創造性のよりどころとなります。一枚の白い紙は人々を書いたり、自身を表現したり、対話を生み出すプラットフォームや器（うつわ）となったりします。その人の思考は、書かれたものに表現されます。私たちの思考の表現が対話を可能にし、その対話の内容が創造性のさらなるプラットフォームや器となるのです。より書かれ、より描かれ、より対話がなされるほど、創造性はさらに刺激されることでしょう。私はこの企画によって、創造性がさらなる創造性を育み、芸術によって対話が促されることを切望しているだけでなく、創造的なプラットフォームが立ち上がることも期待しているのです。

香港は自由貿易港であり、常に情報が循環する開放的で多様な文化を受け入れるプラットフォームとしてあり続けています。香港の文化は自由、開放、双方向、参加、寛容を促進する舞台として常に存在してきました。香港の創造的文化的精神は、世界に広がっている創造力豊かな人々をつなげ、共に” 双方向、参加、協働” を内包する寛容な精神を指し示すことを促しています。” 天天向上” は香港の精神そのものであると同時に、これまで以上に創造力にあふれた中国へ向かうための出発点なのです。” 天天向上” シリーズの展示会は、商業施設「上海 1933」において、フリーマン・ラウのキュレーションで 2007 年に初めて開催されました。その後、2010 年には北京今日美術館にてダーシー・フーのキュレーションで開催、さらに上海万国博覧会において、カイイン・ローと私（ダニー・ヨン）がキュレーターとして参加した香港デザインセンターの” クリエイティヴ・エコロジー — ビジネス、リビング、クリエイティビティ” 展で展示されました。北京での展示会では、創造のプロセスを体験してもらうため数百人に及ぶ中国の子どもたちを招待しました。私たちは子どもたちに、” 天天” を通して考えた彼ら自身の物語を、12cm の天天像にさまざま

まな色やシンボルを描くことによって表現してもらいました。上海万国博覧会では、香港のデザイナーやアーティスト(私も含め)65人が、50cmの天天像をカスタマイズすることで夢や創造力を具体化するため、自らの内面と向き合いました。これら65体の天天像は、21世紀の香港文化を生き生きと描写する代表的な存在となっています。

2012年は、ダニー・ヨンがディレクターを務めるアート集団、進念・二十面体(英語名:ズニ・イコサヘドロン。以下、ズニ)が推進する「“天天向上”～コミュニティと学校のための創造力開発プログラム」によって、創造的デザインというコンセプトを香港中の学校、2000人の子供たちに広げていきます。香港のクリエイターによる65体の天天像に呼応する形で、北京や東京で100人を超える活躍中のアーティストやデザイナーたちが自分自身の天天像を作り、中国と日本の創造性の交流を図ります。それと同時に、ズニでは、東日本大震災で被災した地域の子どもたちのために、次世代へ向けて国境を越えたより意義深い文化交流を促進するワークショップも行っています。

私は香港の創造的精神を反映した、この創造のためのプラットフォームを創ってきたことをとてもうれしく思います。また、多くの子どもたちが対話しながら参加し創造力を発揮することで支援してくれることにこの上ない喜びを感じています。“天天向上”というプラットフォームは、密に対話を行って協力し合うことが創造的なグループ学習において重要であることを示しています。“天天”は一枚の白い紙かもしれませんが、私たちも気づかぬうちに“天天”は、形と中身、夢とビジョンの関係を探る旅へと皆をいざなうとともに、子どもたちの豊かな想像力や試行錯誤しながら学ぶ気持ちを解き放ってきたのです。

追記:

序文:天天向上 —ダニー・ヨンによるコンセプチュアル・コミック—

コミックが相互作用的な思考のための器となることは可能でしょうか? コミックが想像力の源泉となることはできるでしょうか? 私はこの課題に挑戦し、答えを見つけ出すことに決めました。9コマのコミックの中に、自分のいるポジションと、目的を探しました。自分のためにこの9コマの枠組みの中に創りだした実験の場で、それに挑もうとしました。私は、この実験の場が、課題に挑戦するための新しいアイデアや視座を与えてくれることを期待しました。4コマのコミックでは、より多くの知見を得るために研究をかさねました。それはたとえば、デッサンの中で話すことや考えることを研究する、あるいは象徴的にコミュニケーションをする対象を研究することであったかもしれません。私が期待していたのは、自分の作業にとって、多くの段階にあるアイデアの交換を容易にすることでした。3コマのコミックでは、言葉を使って直接的なゲームをするための機会をうかがいました。コマの仕切りを最小限に用いてアイデアを発展させるという方法を実践することは、

対話の記述を練習するためにも良い動機になります。私が、「定義をはっきりさせること」、「規範を壊すこと」、「新しいルールを作ること」における遠回りの過程を変えようと努力している、と主張する人々がいました。一方で、私が「自分自身の物語」を代替のやり方で「語っている」という人もいました。実際のところ、創造とは「私たち自身の物語を語る」ことから始まるべきであると私は信じています。“天天向上”が主観的になり過ぎない限りにおいて、創造すること自体がそのまま創造的な相互作用のためのプラットフォームとなるでしょう。すなわち、このようなプラットフォームの拡大は、自然と多層文化の発展のための力を結集する源泉になるでしょう。

序文：北京今日美術館における“天天向上”展覧会

天天は顔をあげて上方を指さしながら、そこにじっと立っています。天天の頭上に何かあるのでしょうか？ 太陽、月、星、青空、彩られた雲、虹、鳩、トンボ、ハエ、凧、スーパーマン、飛行機、空飛ぶ円盤、もしくは飛来物？ 天天の頭上にあるものは何でしょう？ そのまた上には何かあるのでしょうか？ 希望？ 将来？ 私たちの夢でしょうか？

天天は顔をあげて上方に注意を喚起したままそこを動かずに立っています。天天が見上げたところに何かあるのでしょうか？ それはどのように生じたのでしょうか？ 天天の頭上に何かをつくったのは誰でしょう？ 天には神さまがいるのでしょうか？ 私たちはそこへ登って見てみる方法があるのでしょうか？ 初めに現れたのは何でしょうか。天のもの？ それとも地上のものなのでしょうか？ 天天の頭上の空間にはなにも存在しないのでしょうか？ 何もないということの意味は何でしょう？ 空には何も存在しないということでしょうか？ 天天はまるで魔法にかかったかのように、このような質問をつづけます。

天天は顔をあげて上方を指さしながら、そこにじっと立っています。天天は昼も夜も動くことなく立っています。夏、秋、冬そして春が過ぎても、時代が変わっても、人生のさまざまな段階を経ても、平和なときも戦争の間も、人生の喜びの瞬間も悲しみのときも、嘲笑されても軽蔑されても、ひたすら立ちつづける。どんなに周りが変化をしたとしても、上方を指さしそこに立ちつづけると言って聞きません。

魔法にかかったかのように、天天は顔をあげて上方を指さしたままそこにじっと立っています。誰が天天に魔法をかけたのでしょうか？ 同級生？ 先生？ 両親？ 上司？ 奥さん？ もしくは、彼を生み出したアーティスト？ 発明者？ 実業家？ 教育者？ 革命論者？ 政治家？ 哲学者？ もしくは、天天が自分自身に魔法をかけたのでしょうか？

ダニー・ヨン

ダニー・ヨンは1943年上海に生まれ、香港で育ちました。17歳のときカリフォルニアのバ

ークレーで建築を学ぶために渡米。その後、コンピューターサイエンス、都市建築学と都市計画をニューヨークのコロンビア大学で修めました。1979年、香港に戻り、香港アートセンターで「ひとりの男の漫画の展示」を行いました。さらに彼には初となる構造主義者の映像作品“ブロークン レコード #1”を上映しました。1982年、ヨンはアート集団“ズニ・イコサヘドロン”を設立し、パフォーミング・アートやプレスイベント、アート教育、ユース・フェスティバルを国内のみならず国際的に行っています。ヨンは香港における芸術政策の策定のための主要な設立発起人となり、芸術教育チームの代表を務めました。ヨンは、地域教育にも熱意を注いでいます。彼は現在、香港国際專業教練協會 香港兆基創意書院の理事を務めています。香港を拠点にするマルチアーティストのダニー・ヨンは、香港でもっとも精力的な文化人の一人です。

主催／香港特別行政区政府 駐東京經濟貿易代表部

香港特別行政区政府の駐日代表機関として、香港と日本間の經濟貿易關係の強化、相互理解と協力關係、また文化・觀光交流の促進を図っています。同代表部は、香港に興味を持つ日本人や諸団体に対する中心的な窓口となっています。日本において各種 PR・文化活動を組織するほか、日本および香港の要人が両地を訪問する場合の支援の提供も行います。

共催 / デザインアソシエーション NPO

デザインアソシエーション NPO は、デザイン&アートイベント「東京デザイナーズウィーク」やテレビ番組「TOKYO DESIGNERS WEEK .tv」などを通じて、あらゆるジャンルの「生活のなかのデザインやアート」に関わる企業・デザイナー・学校・大使館・メディアをフレキシブルに結び、業界・業種の枠を越え、国を超えて参加する、社会貢献する運動体です。

進念・二十面体（ズニ・イコサヘドロン）／アーティストック・ディレクター：ダニー・ヨン、マティアス・ウー

進念・二十面体（英語名：ズニ・イコサヘドロン。以下ズニ）は、香港に9組織あるプロフェッショナルアートカンパニーのうちの1つで、1982年に設立されました。ズニは香港を拠点にする国際的な実験演劇カンパニーで190以上のオリジナル作品を制作。オルタナティブ・シアターやマルチメディア・パフォーマンス、映像活動、サウンドの実験、インスタレーション・アート、その他、アート教育、アート批評、文化政策の研究、国際文化交流の分野でも活動しています。長年、ズニはヨーロッパ、アジア、アメリカなど30以上の都市に招待され、文化交流やパフォーマンスを行っています。

ズニは香港およびアジア太平洋地域の文化的発展を常に注意深く見守っています。ズニは100以上に及ぶさまざまな種類の交流プログラムについて積極的に組織、参加してきまし

た。その中には、世界文化フォーラム、アジア・アーツ・ネット、香港・台湾・深圳・上海 都市文化交流会議などが含まれます。2000 年、ズニは“ フェスティバル・オブ・ビジョン（香港/ ベルリン）” に参加しました。それは、アジアとヨーロッパの間でかつてない規模の大きさの文化交流でした。アジアとヨーロッパの 35 都市から 1000 人を超えるアーティストが、専門分野や領域を超えた、この多種多様な内容を持つ記念碑的イベントに参加したのです。2009 年、ズニのアーティストック・ディレクターであるダニー・ヨンは、ドイツ・香港間の芸術・文化交流への功績が認められ、ドイツ連邦共和国のメリット勲位のメリット十字を受章しました。

後援／香港デザインセンター 会長: ヴィクター・ロー、事務局長: エドモンド・リー博士

香港デザインセンター(HKDC) は、社会のためにデザインを活用することを主要な事業とする、2001 年に設立された公的資金による独立非営利団体です。デザイン産業のサポートとして(i) 卓越したデザインを促進・推奨し、(ii) 戦略的かつ広範なデザインの活用を支援することで、付加価値のあるビジネスや地域社会の利益を生み出し、(iii) 事業者連や地域社会が内部資源を持つように指導し、デザインとイノベーションを通じた継続的な発展を支援します。

香港デザインセンターは、長期的な結果を出していくために、地域社会や、さまざまなデザイン領域、教育、商業、第三セクター、公共セクターを横断する地域社会や、いろいろな事業分野からの継続的なフィードバックおよび頑強なサポートを求めています。